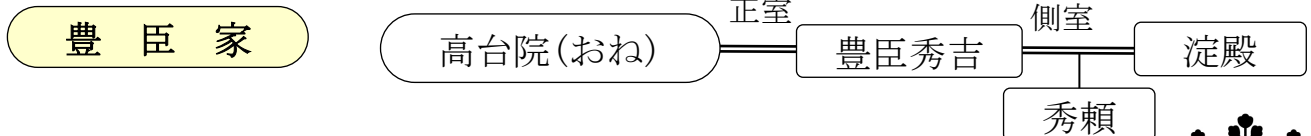


浅井三姉妹の郷(姉川古戦場)と関ヶ原古戦場めぐり!!

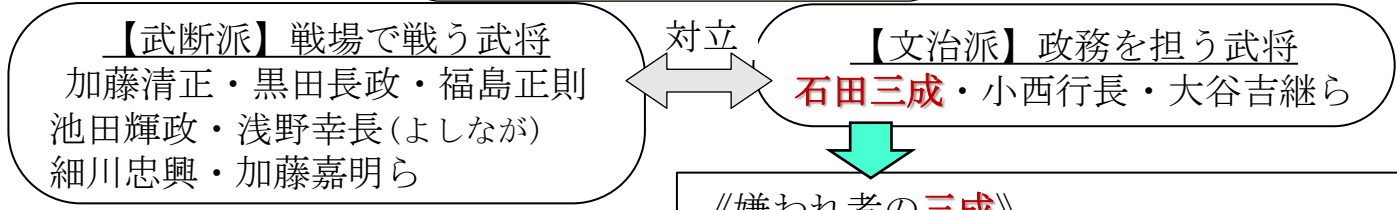
【行程】

小坂公民館=====尼御前SA(トイレ)休憩=====南条SA(トイレ)休憩=====浅井歴史民俗資料館=====  
=====姉川古戦場=====関ヶ原古戦場記念館(昼食・見学)・古戦場巡り====不破関資料館====  
=====南条SA(トイレ)休憩=====尼御前SA(トイレ)休憩=====小坂公民館



- 五大老⇒**徳川家康**(筆頭)・前田利家(没後は、**前田利長**)  
毛利輝元・宇喜多秀家・上杉景勝
- 五奉行⇒**石田三成**(筆頭)・浅野長政・前田玄以(げんい)  
増田長盛(ました/ながもり)・長束正家(なつか/まさいえ)

武断派と文治派の対立



豊臣秀吉死後(1598年)8月18日

◎太閤様御置目⇒秀吉の遺言や生前に作成された掟で、諸大名は勝手に婚姻を結んではならないなど。  
しかし、**家康**は、  
◆五奉行に無断で大名や家臣の婚姻のあっせん(伊達家・福島家・蜂須賀家・加藤家など)  
◆知行(領地)の授与を勝手に実施

《嫌われ者の**三成**》  
①官僚だから本人が戦場で傷つくことがないため武断派からは嫌われていた。  
②秀吉の一番の側近で秀吉に様々な報告や秀吉からの命令を伝達する役目であったが、秀次事件・千利休切腹・ガラシャ夫人自害など、三成の報告の仕方に不満を持つものが多くいた。  
③特に、1598年末に秀吉による朝鮮出兵が終わっても、三成の報告により朝鮮での功績を認めてもらえない武将も多くいた。(不公平な論功行賞)  
④親友大谷吉継からも「お前は皆から嫌われているぞ」と忠告されていた。

▼1599年1月、四大老・五奉行は**家康**の勝手な行動に反発  
▼**三成**の評判は最悪

五大老no2の **前田利家**が仲裁役となり一旦治まるが、  
【1599年閏3月3日、利家死去】

**三成**は事前に察知し京都伏見城内の**三成**の屋敷へ逃げ込む。

**家康**が事件を仲裁  
**三成**謹慎処分で失脚し、  
五奉行を退き  
佐和山城(彦根市)に蟄居

◆利家死去の翌日(閏3月4日)  
<**石田三成**襲撃事件発生>  
【武断派】加藤清正・黒田長政・福島正則  
池田輝政・浅野幸長・細川忠興・加藤嘉明の7将(史料によりメンバーが異なる)が大坂に居を構える**三成**を襲撃する。(諸説あり)

閏3月13日、  
**家康**伏見城西の丸へ入り込む

## 関ヶ原合戦の一年前 慶長4年（1599）家康が『加賀征伐』？

### ◆9月7日、家康の暗殺計画？

家康は重陽の節句を祝うため伏見から大坂城の秀頼・淀殿を訪れた。その際、増田長盛（五奉行の一人ですでに家康派に転じていた）から家康に「前田利長・浅野長政（五奉行の一人）・大野治長・土方雄久らが、家康殿の殺害を計画している。首謀者は前田利長である。」と密告する。

（疑惑）

①利家の遺言⇒「3年間は上方を離れるな!」と言われたが、利長は8月に金沢へ帰国する。

②利長は、高山右近に命じて金沢城内に惣構（東内惣構・西内惣構）を造成し有事の際の防衛対策を進めた。（1599年）

【参考】3代藩主利常は篠原一孝に命じ東外惣構・西外惣構を造営（1610年）

しのはらかつたか

### ◆9月28日、家康が大坂城西の丸へ

9月26日、北政所（おね）が大坂城西の丸から京都に移るや否や、家康は翌々日に伏見から大坂城西の丸に居所を移し、軍勢を呼び寄せて警護を固め、大坂方の政治を取り仕切る。

### ◆10月2日、家康暗殺計画者の処分

浅野長政⇒奉行職を解任、家督を子の幸長（よしなが）に譲らせ、国許の武蔵国府中に蟄居（幸長は、利家の5女・与免と婚約。しかし、結婚前に幸長は死去する。）

大野治長⇒下総国（結城秀康）に配流、ひじかたかつひさ土方雄久⇒常陸国（佐竹義宣）に配流  
しもうさのくに ひたちのくに

### ◆10月3日、『加賀征伐』と関係悪化を克服＜慶長の危機＞

家康は、前田利長に謀反の疑いありとして諸大名に『加賀征伐』を命じる。前田家家中では、徹底抗戦派と抗戦回避派が激しく議論したが、利長は抗戦を回避するという結論に至った。

利長は、横山長知（ながちか）を大坂の家康のもとに向かわせ、三度にわたる懸命な釈明により嫌疑は無事晴れたが、次のような厳しい条件が出された。

◆母・芳春院（まつ）が人質として江戸へ赴く。

前田利孝（後の七日市藩初代藩主）・横山長知らが同行する。

（1600年5月17日伏見を發し、6月6日江戸に到着）

◆利常（当時・猿千代8歳）と家康の孫娘・珠姫（3歳）を結婚させる。

（1600年11月10日婚約、1601年7月～9月の3か月かけて金沢へ）

※両家の関係を密にすることで家康との関係悪化を避けた。

【参考】関ヶ原合戦後、前田利政の能登の所領（21.5万石）を没収

利政は、京都の嵯峨に隠棲（いんせい）し、本阿弥光悦とも親交があったことから宗悦と号した。寛永10年（1633）京都にて死去。墓所は京都大徳寺。

利政の子・直之は前田利常（加賀藩第3代藩主）に仕え、前田土佐守家の家祖（初代）となる。

徳川家康

会津

上杉景勝 / 家老・直江兼続

③ 1600年正月、家康は年賀の挨拶のため諸大名に上洛を求めるが、上杉景勝は上洛拒否。

⑤ 4月1日、家康は景勝の動きを謀反と決めつけ、弁明のために6月上旬の上洛を促す。

⑥ 上杉景勝に謀反の意思はないと上洛を拒否する内容で、家康に挑発的な文言もある。これが『直江状』である。

⑦ 1600年5月3日 会津征討(せいとう)を決定! 諸大名に上杉攻めを発す

① 1598年1月、秀吉の命により家康と伊達政宗に対する押さえの役割として、越後から会津120万石に加増移封

② 1599年7月、上杉景勝帰国  
▼領内の諸城の修築  
▼名のある浪人の召し抱え  
▼道や橋の整備

④ 1600年2月、鶴ヶ城(会津若松城)の近くに神指城(こうざし)の築城を開始するが、家康の「会津征伐」によって完成に至らず。

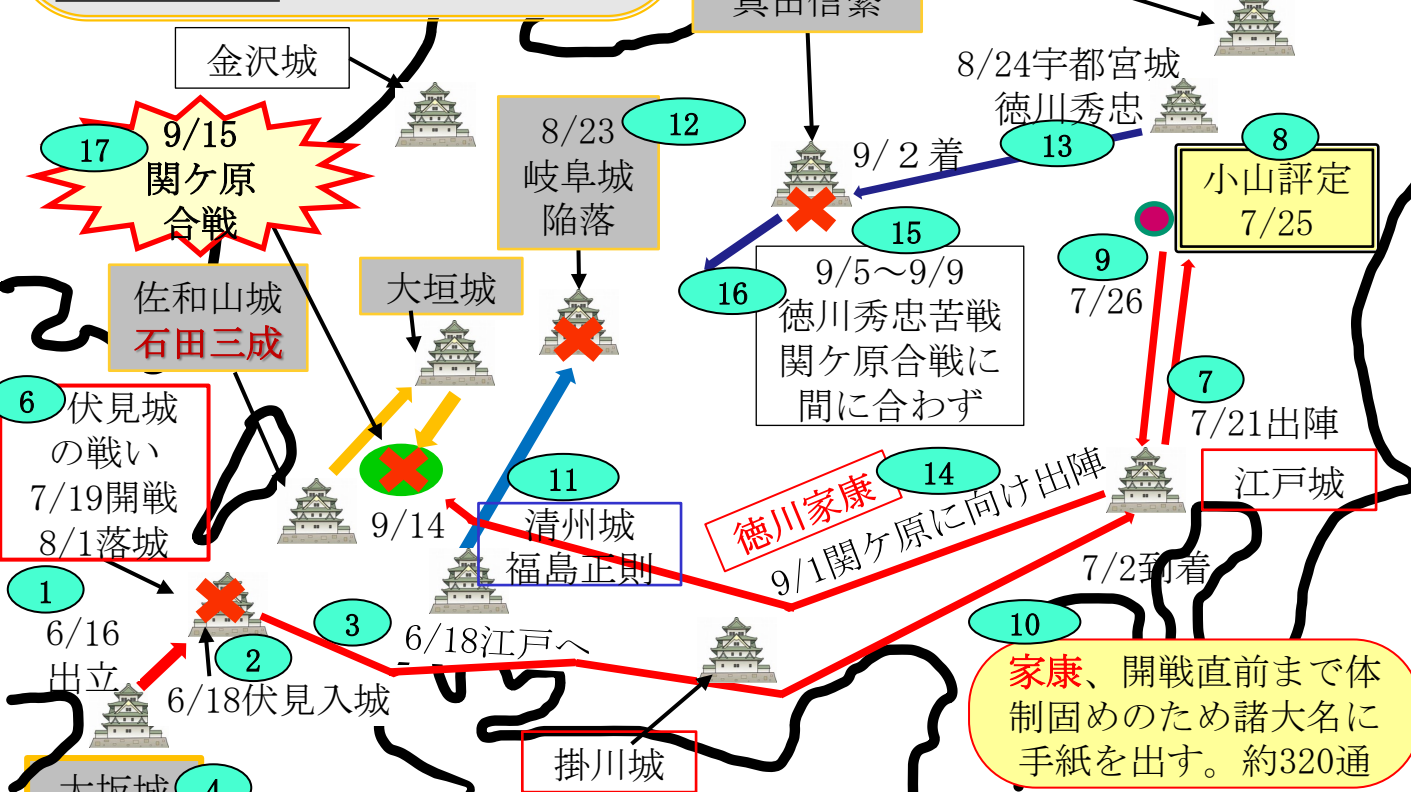
▼上杉景勝、関ヶ原合戦後、出羽国米沢 (30万石) へ

家康激怒

関ヶ原の合戦へ

⑤ 『内府ちかひの条々』 (1600年7月17日付) 前田玄以、増田長盛、長束正家の三奉行は家康の悪事を13カ条にまとめた告発文を全国の大名へ送る

上杉景勝 (家老・直江兼続) 1598年1月 秀吉により越後から会津へ転封(国替え)



家康、開戦直前まで体制固めのため諸大名に手紙を出す。約320通

7/16、毛利輝元は広島から大坂城へ入り豊臣秀頼を補佐し総大将に

<前田利長と丹羽長重>

(1) 利長と長重の正室は、ともに信長の娘で、義兄弟でありながら極めて不仲であった。

利長⇒永姫(玉泉院)、長重⇒報恩院

(2) 利長は83万石の大大名で、長重は小松・松任12万石である。(父の丹羽長秀は一時、越前国・若狭国・加賀国2郡の123万石が与えられていた。)

(3) 慶長4年(1599)利家が没すると、家康は「利長の謀反」に対処するため、長重に利長の監視役を密かに命じる。

(4) 利長は、家康から「上杉討伐に北陸諸大名を率いて参戦するよう。」に命じられたため、長重に参戦を呼び掛けるが、利長が家康側につくなら自分は敵に回ろうと拒否し西軍へ着いた。

利家の次男・前田利政  
能登21.5石

⑧ 利政の妻・籍(蒲生氏郷の娘)が石田三成に人質としてとらわれているため、徳川からの出陣要請に利長が説得するも頑として応じず、利長の再出陣が遅れた。

前田利長  
83.5万石

① 7月26日、利長は加賀南部や越前を制圧すべく、2万5000の大軍で出陣

小松城 丹羽長重(3000の兵)  
(湿地に建造された難攻不落の城) (西軍)

② 8月3日、大聖寺城の戦い  
城は落城し山口宗永親子は自刃する。(2000の兵)  
(西軍)

③ 利長は更に南下するも

北ノ庄城  
青木一矩(西軍)

越前府中城  
堀尾吉晴(東軍)

敦賀城  
(西軍)

④ 8月3日、大谷吉継は敦賀へ入る。(30, 100の兵)

⑦ 8月9日、浅井嘯の戦い

利長は、兵の半分を小松城に対するけん制部隊として残し一旦金沢へ撤退する。

けん制部隊として利長撤退の殿(しんがり)を務めた長連龍と丹羽長重の一隊が交戦する。

利長軍が反転して援軍を送るが決着が付かず双方痛み分けとなる。

⑤ 8月6日、

◆第一報⇒大谷吉継が越前救援のために兵を越前へ差し向けた。

◆第二報⇒大谷吉継の別動隊が海路から金沢に攻め込む。

◆更に⇒利政は西軍寄りの立場を取って、大聖寺攻撃以降、病と称して動こうとしない。

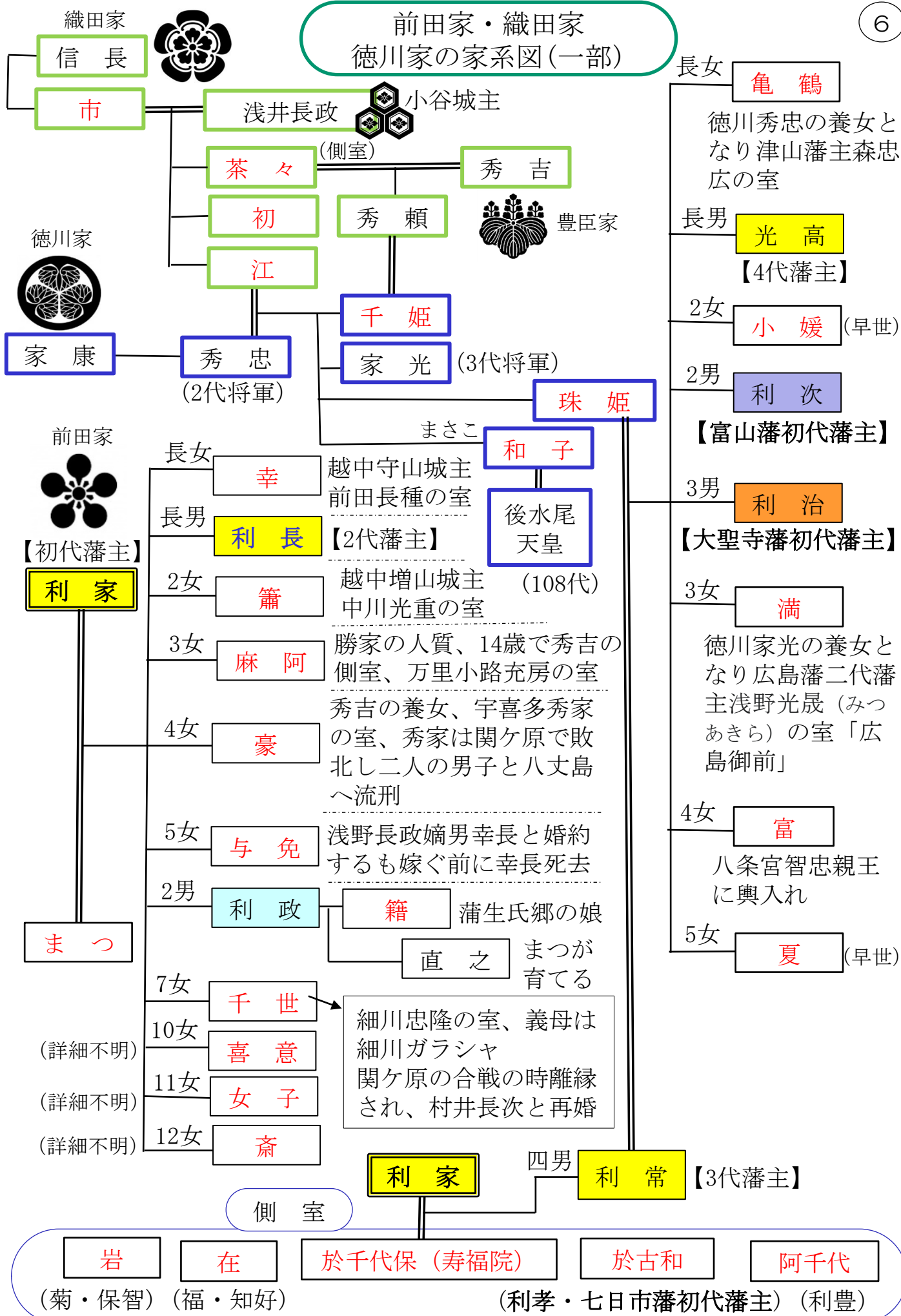
⑨ 9月11日、再出陣するが、丹羽長重は家康に使者を送り和睦を申し立て双方の弟を人質とした。  
※関ヶ原の合戦(9月15日)に参戦できず。


西軍 (単位:万石)		東軍 (単位:万石)	
<b>石田三成</b> 小西行長 安国寺恵瓊	1600年10月1日 京都六条河原で斬首	徳川家康	武蔵江戸256⇒日本各地400 佐渡金山、岩見銀山など
		結城秀康	(宇都宮に残り上杉をけん制) 下総結城10.1⇒越前北ノ庄75
大谷吉継 (越前敦賀5)	寝返りした小早川秀秋 軍と戦い自害	松平忠吉	武蔵忍⇒尾張清州52
		黒田長政	豊前中津12.5⇒筑前福岡52.3
※ 宇喜多秀家	備前岡山57.4 ⇒八丈島へ流罪(1606)	福島正則	尾張清州20⇒安芸広島49.8
		池田輝政	三河吉田15.2⇒播磨姫路52
▼毛利輝元 44,000人 (西軍総大将、 参戦せず)	大坂城守備隊、 <u>吉川広家</u> の主導で <b>家康</b> と和睦 安芸広島112 ⇒長門萩36	井伊直政	上野高崎12⇒近江佐和山18
		浅野幸長	甲府21.9⇒紀州和歌山39.5
		山内一豊	遠江掛川6.9⇒土佐浦戸20.3
▼吉川広家 16,000人 (不戦・傍観)	東軍に内応し、 <u>毛利本家</u> の安泰を願い毛利秀 元本隊の出陣を妨害 出雲富田14.2 ⇒周防岩国3 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">                         本領安堵失敗                     </div>	細川忠興	丹後宮津23⇒豊前小倉36.9 (妻・ガラシャは三成からの人質を拒否し自害)
		真田信之	上野沼田2.7⇒信濃上田9.5 昌幸・信繁は西軍(九度山へ蟄居)
★小早川 秀秋 15,000人	東軍に寝返り積極的に 参戦 筑前名島30.7⇒ 備前岡山57(加増)	京極高次	近江大津7⇒若狭小浜9.2 (西軍と大津城で交戦し、西軍参戦できず。蚩大名)
▼島津義弘 (戦闘不参加) 1,500人	薩摩鹿児島61.9⇒井伊 直政の口添えで本領安 堵、「島津の退き口」	前田利長	加賀83.5⇒加越能119.2 (北陸の関ヶ原)
本戦戦力	84,000人(諸説あり)	本戦戦力	75,000人(諸説あり)
戦死者	8,000人(諸説あり)	戦死者	4,000人(諸説あり)

※宇喜多秀家 ①妻は前田利家の4女・豪姫。豪姫は幼少より秀吉の養女となり、後に岡山の秀家に嫁ぐ。②秀家は関ヶ原合戦で西軍の主力として福島正則と激戦するが敗戦。③逃避行後、島津義弘に匿われたが、潜伏生活も長くは続かず伏見へ出頭し捕らわれる。④二人の息子と共に八丈島へ配流となる。⑤83歳で没。二人の息子は八丈島で結婚し宇喜多家の血筋を残している。⑥明治維新後に秀家の赦免状が届く。⑦加賀藩は、280年間米などを送り続けた。

★小早川秀秋 ①豊臣秀吉の正室おねの兄の子、秀吉の養子となる。②秀頼誕生後は小早川家の養子となる。③筑前30万7千石へ。④朝鮮出兵・帰国後⑤越前北ノ庄15万石に転封。⑥家康の計らいで旧領に復帰。⑦西軍として伏見城攻に参戦するも、関ヶ原の合戦では寝返りし大谷吉継と戦い撃破。⑧備前岡山57万石を与えられ、岡山城を居城とした。⑨しかし、2年後21歳で没する。


前田家・織田家  
徳川家の家系図(一部)



 元龜元年 6月19日 (1570) 21日 24日	織田信長は浅井長政を討つため岐阜城を出立する。 小谷城南2キロの虎御前山に布陣し、城下町を焼く払う。
	信長、虎御前山から撤退し、 <u>浅井の支城・横山城を包囲</u> して竜ヶ鼻に布陣。 <u>徳川家康も合流</u> する。 朝倉景健の援軍が小谷城で浅井長政と合流し、 <u>大依山に布陣</u> する。(朝倉義景は参戦せず)
27日～28日未明 28日 5時 14時	浅井軍は野村へ、朝倉軍が三田村へ陣を移動する。 浅井軍vs織田軍、朝倉軍vs徳川軍が衝突する。 榊原康政(徳川家臣)が朝倉軍の側面から攻め、 <u>朝倉軍敗走</u> する。つられて浅井軍も敗走した。
9月～12月	浅井・朝倉軍は、比叡山へ南下、信長軍と交戦、信長軍は大打撃。和議成立後、浅井・朝倉は帰国する。(志賀の陣)
元龜 2年 9月	信長、比叡山を焼き払う。
元龜 3年 6月	信長軍、虎御前山に布陣する。
天正元年 8月20日 (1573) ～9月1日	朝倉義景は、出陣するも刀根坂で織田軍に壊滅的な被害を受け一乗谷へ撤退後、 <u>大野に逃れ自害</u> する。 浅井長政は、織田軍に小谷城を攻められ自害(9/1)。市と三姉妹は救出され織田信次(信長の叔父)の守山城で暮らす。

【姉川の戦いの陣営】

浅井方 かげたけ		織田方
浅井長政・朝倉景健	指揮官	織田信長・徳川家康
浅井軍11,000人・朝倉軍7,000人	戦力	織田軍20,000人・徳川軍5,000人
1,100人	戦死者	800人

虎御前山 



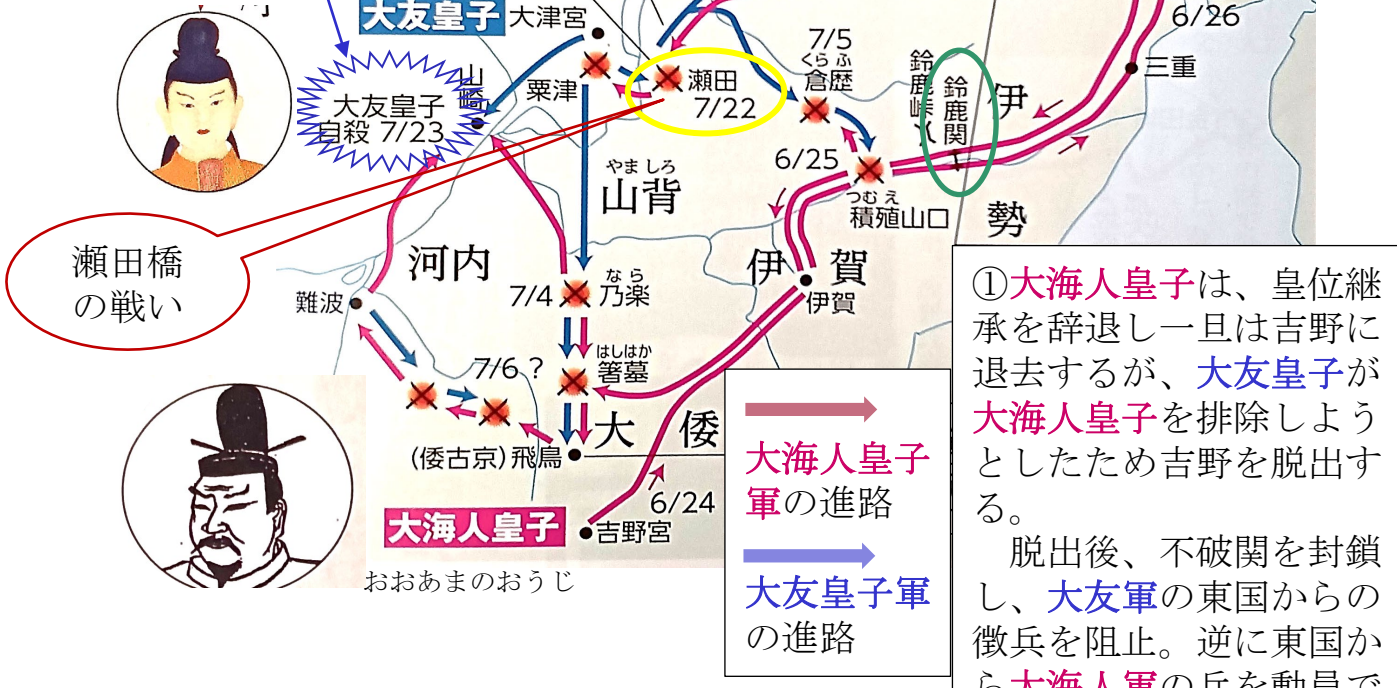
小谷城



===壬申の乱 天武元年(672年)===  
 天智天皇の死後、弟・大海人皇子と息子の  
 大友皇子との間で皇位継承を巡り激し  
 い戦いが勃発した、古代史上最大の内乱

三関(さんげん)  
 古代の日本で畿内周辺に設けら  
 れた関所の内、特に重要視され  
 た3つの関

②大海人軍は、鳥籠山、安河の  
 激戦を制し瀬田まで進撃した。  
 瀬田唐橋の西詰には大友皇子  
 自らが指揮する軍勢が布陣して  
 いた。その数は膨大であったが  
 、攻防戦を繰り広げた結果、大  
 海人軍が優勢になり、敗走した  
 大友皇子は山崎で自害した。  
 (25歳)



①大海人皇子は、皇位継承を  
 辞退し一旦は吉野に退去するが、  
 大友皇子が大海人皇子を排除し  
 ようとしたため吉野を脱出する。  
 脱出後、不破関を封鎖し、大友軍  
 の東国からの徴兵を阻止。逆に東国  
 から大海人軍の兵を動員できる  
 ようにした。  
 そして、大海人軍は近江・大和の  
 2方面から進軍を開始した。



壬申の乱  
 関係者の系図

